

第4回中野区交通政策推進協議会 議事要旨

1. 日時・場所

令和4年（2022年）1月27日（木）午後2時から午後3時30分
中野区役所7階 会議室

2. 協議会の様子



3. 議事

- (1) 中野区交通政策基本方針について
- (2) 公共交通ネットワークの充実にに向けた取組について
- (3) 今後の協議会について

【主な意見】

(1) 中野区交通政策基本方針について

○特になし。

(2) 公共交通ネットワークの充実にに向けた取組について

○実証実験にあたって、選定された事業者が後になり運行できないということもあるので、国土交通省の許認可担当部局に事前に相談してもらいたい。

○実証実験の周知を行う際は、誰がどのような目的で使うか等、利用シーンを想定し、利用例を地域に示すとよい。

○評価指標は、基本方針「目指すべき姿の実現に向けたステップ」を踏まえた検討をすることになる。採算性を評価指標の一つにする例が多いが、大型バスの走行が困難な集客できない地域では、単に乗車人員で評価するのではなく、それ以外の点も考えるべき。例えば、駅に向かうルートが難しいのであれば、他の交通手段とのネットワーク化も評価に入れる等、指標の設定に工夫が必要となる。

(3) 今後の協議会について

○他自治体でも地域公共交通計画の作成に関与しているが、地域の住民、行政、事業者が何かしら負担していくことがないと持続的にならない。この協議会では、それを明確にしながら進めて

いくとよい。

- バス事業者は色々なところで経験をされており、それを生かした議論をしていくことを大事にしてすすめていきたい。計画はつくることだけでなく、関係者が議論すること、皆で次のまちをつくっていくことが大事である。
- 中野区は区境が入り組んでいるので、近隣区も含めて利用者目線でどこまでつなげるか、広域連携をはかることも考えるとよい。特に実証実験の対象範囲に近い杉並区は、必要に応じ、オブザーバーとして会議に参加してもらうのもよい。
- 新たな交通サービスの導入にあたっては、既存の公共交通に係わる事業者との共存は大事であり、共倒れにならないようにされたい。
- バスと自転車は共存していく必要があり、自転車専用レーンの整備、路上駐停車対策などの環境づくりに協力していきたい。今後の協議会の検討の中で、中野通りの新井は放置自転車が多いので問題解決できればと考えている。
- 自転車の位置づけが曖昧で、インフラが自転車利用に合っていない現状がある。自転車の活用を図るだけでなく、安全性の確保も含め検討していくべき。

以上